

経営比較分析表（令和元年度決算）

北海道函館市 市立函館病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	30	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
255,308	57,712	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

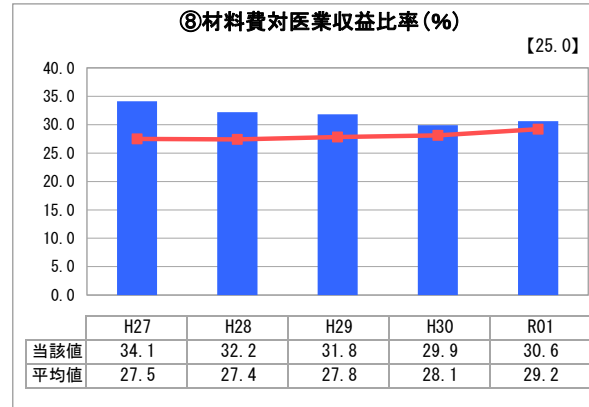
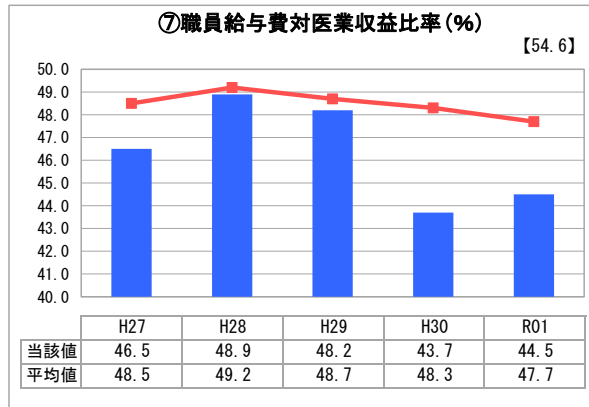
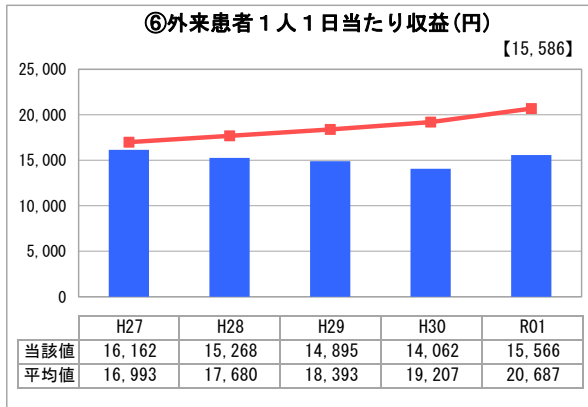
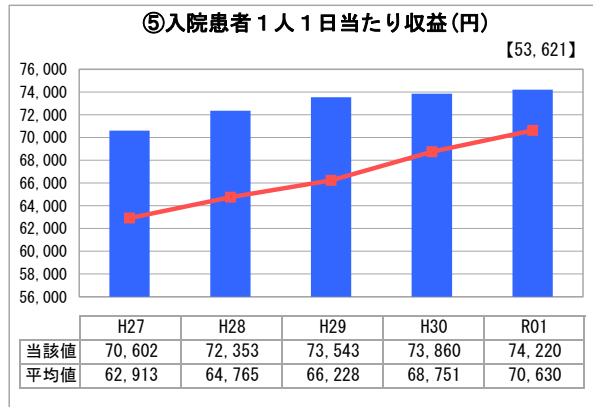
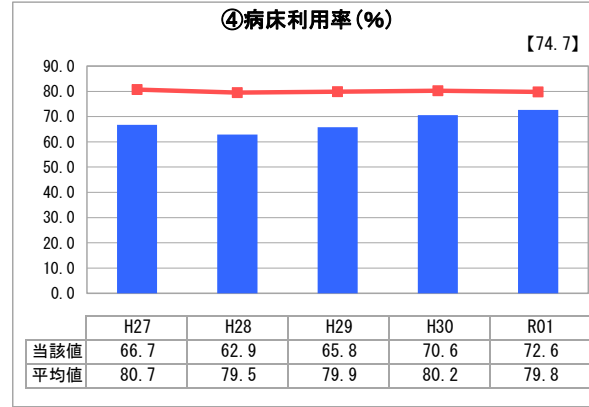
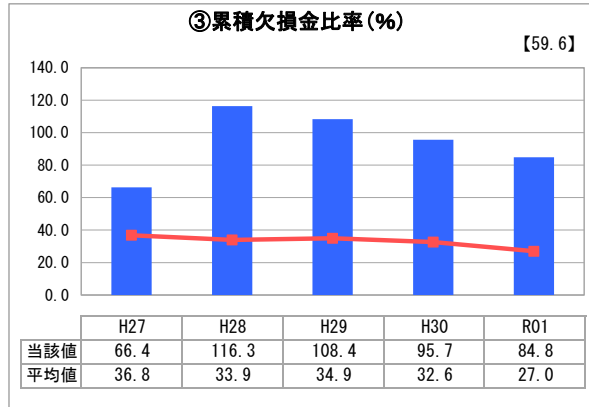
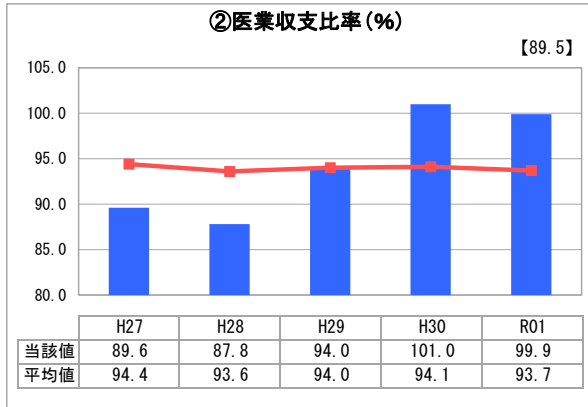
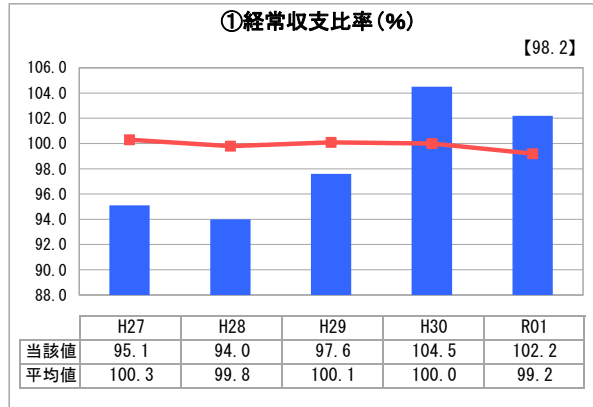
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
582	-	10
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
50	6	648
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
499	-	499

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
【】	令和元年度全国平均

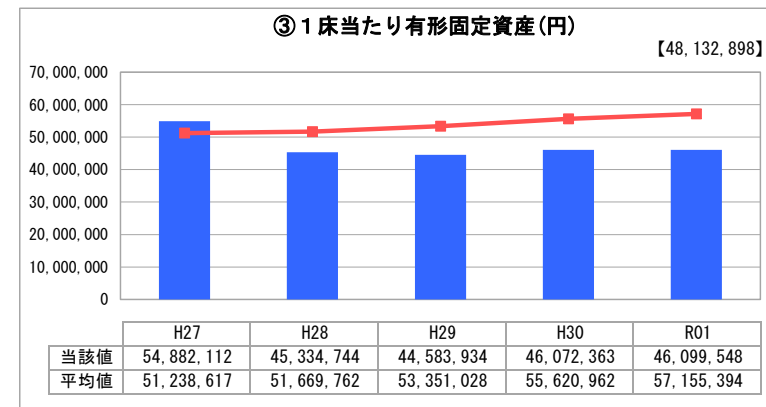
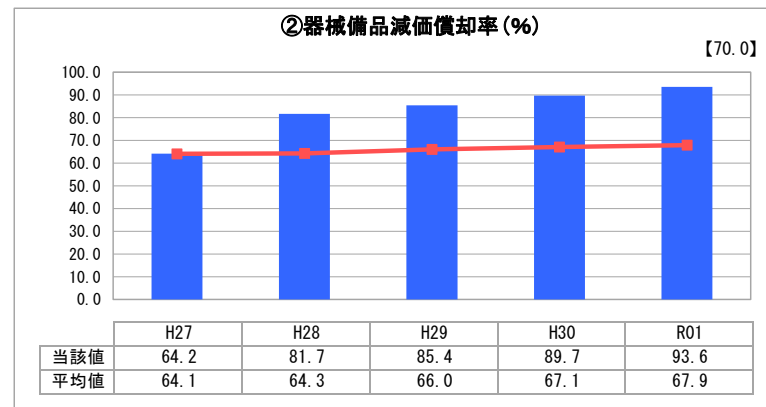
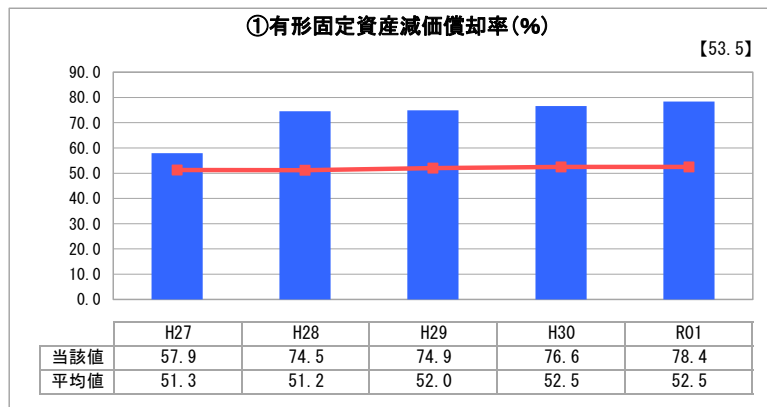
公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



I 地域において担っている役割

市立函館病院は、三次医療圏(道南)の中核医療機関であり、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域産科母子医療センター、災害拠点病院、臓器提供施設、地方・地域センター病院などの役割を担っております。このほかにも、第二種感染症指定医療機関として感染症や結核患者の入院施設等の役割を担っており、高度急性期・急性期医療を中心に、不採算部門を含め、地域医療を担保するという役割を担っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

診療報酬のマイナス改定等による医業収益の低下から、平成28年度まで経常収支比率および医業収支比率が低下しています。しかし、平成30年度以降は入院患者数の増加による病床利用率の向上や、入院患者1人1日収益の増加により医業収益が増加したことにより、経常収支比率、医業収支比率、累積欠損金比率、職員給与費対医業収益比率が改善されています。

また、診療材料の安価な同種同等品への切替等により、材料費対医業収益比率も低下しています。

なお、平成28年度の累積欠損金比率の急増は、減損損失の計上によるものです。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率および器械備品減価償却率が平成28年度から上昇していますが、減損損失を計上したことによるものです。1床当たり有形固定資産の数値の低下も同様の理由です。

減損損失とは、収益性の低下により投資額を回収する見込みが立たなくなった資産の帳簿価額を、回収可能性を反映させるように減額する会計処理です。当院では、平成28年度にその会計処理を行ったため、固定資産の帳簿価額が減少しています。

なお、当院は平成12年の移転新築から令和元年で19年を経過していることから、施設の老朽化も課題の1つとなっており、施設設備の計画的な補修、改修が必要となってきました。

全体総括

経営効率化に向けた取り組みを継続しております。

①収益の増加
地域の医療機関との連携を強化し、紹介患者を積極的に受け入れ、入院件数を確保する、平均在院日数の適正化により病床利用率の向上に努め、入院収益の増加を図ります。

②経費の削減
共同購入の参加や使用材料の見直し等を行い、薬剤材料費の更なる削減に努めます。

③役割の維持・継続
市立函館病院は道南地域の救急医療の最後の砦であり、様々な疾病に対応できる診療機能を備えた中核医療機関です。また、地域の医療機関に医師等を派遣する地方・地域センター病院であり、現在担っている役割を維持継続し、地域全体で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。